

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-139	14-051	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The association between obesity and lethal blood alcohol concentrations: A nationwide register-based study of medicolegal autopsy cases in Sweden. 血中アルコール致死濃度と肥満の関係：スウェーデン法医解剖登録から</p>		
執筆者		
Wingren CJ, Ottosson A		
掲載誌		
Forensic Sci Int. 2014 Sep 28;244C:285-288. doi: 10.1016/j.forsciint.2014.09.012		
キーワード		PMID
アルコール、肥満、致死量、法医解剖		25300068
要 旨		
<p>目的： 肥満はあらゆる分野の課題であるが、アルコールの致死量との関係についてはほとんど研究されていない。一般的に、エタノール中毒による死因は呼吸抑制であると考えられている。先行研究では、肥満者は標準体重の者に比べ、呼吸機能が脆弱であると報告されている。そこで、肥満者は標準体重の者よりも血中アルコール致死濃度が低いか検証した。</p> <p>方法： スウェーデンの法医解剖登録を用いて、1999-2013年の79,060例の法医解剖を対象とし、原死因がエタノール中毒である1,545例の解析を行った。BMIと血中アルコール致死濃度との関係をロジスティック回帰モデルを用いて、性、年齢、薬物、解剖までの時間などの交絡因子を調整して検討した。</p> <p>結果： 肥満群は血中アルコール致死濃度が低いことが認められた。標準体型群と比べて、肥満群の血中アルコール致死濃度が3‰以上である調整後のオッズ比は0.54(95%CI 0.39-0.74)であった。</p> <p>結論： 標準体型者に比べて、肥満者は血中アルコール致死濃度が低いことが示唆された。</p>		